ばく通信　No.14

2022．6月　　特定非営利活動法人　発達障害児応援団 ＮＰＯばく

ばくを開設して15年目になります。発達障害の子ども達が“自分の今と未来に希望を失わないでほしい”“わかる喜びを経験させたい”との願いのもとに始めた NPO。指導担当と相談担当がペアになって“子どもへの学習支援”と“保護者の不安に伴走する支援”の両輪支援を行ってきました。

6月1日時点で通算 196 人の学習支援を行いました。時折、巣立った子ども達（もう、大人ですが）の就職や大学進学等のうれしい便りが届きます。ばくに通っている頃の彼らの姿（とげとげしかったり、だんまりだったり…）を思い返し、早期の気づきと支援の重要性を感じています。

修了生からのメッセージ

僕と同じように困っている子がいたら、
「何も心配いらない。何でもいいから一つ夢中になれる物を探して！」 って言ってあげたい。

令和４年度の活動

① 学習支援・・・火曜日～金曜日 ６月１日時点では指導枠は空いていません。しかし、転居や状況の変化等から、途中退室もあります。入室希望の方はお問い合せください。
② 不登校支援・・・学習支援とカウンセリングを組み合わせて支援しています。
③ ほっとルーム・・・ばくを修了した子どもと保護者を対象に、無料相談等を行っています。
④ ちょこっと相談・・・ばくの支援を受けたい方を対象に 10 分程度の無料相談を実施しています。
⑤ カウンセリング（一般相談）・・・50分 5000 円です。
⑥ 知能検査・・・WISC-Ⅳが中心です。報告書の作成と説明も含めて 15000 円です。
⑦ お勉強カフエ・・・賛助会員を対象にした学習会。ズームと対面のハイブリッド開催。
“知能検査の結果を支援に生かす”というテーマで有料対面学習会を実施する予定です。
⑧ ばくの情報はホームページで発信しています。

ばくには、様々な問い合わせの電話がかかってきます。指導中のため十分な対応ができないこともあります。そこで、主に電話を取ることの多い相談担当からのメッセージをお届けします。

相談担当からのメッセージ

～ ばくで鳴る電話（相談担当Aから） ～

子ども達の指導中、電話が鳴ることがある。指導担当は指導しているのだから、相談担当が電話に出ることが多い。知らない所に電話をするのは誰もが緊張するものだが、とりわけ入室や相談を希望する電話は、非常に硬い声の方が多いと感じる。先日かかってきた電話も、『ばく』への入室を希望するお母さんからであり、その声は例にもれず硬く、おどおどしていた。

私はできるだけ穏やかにと話を進めたが、お母さんの声はなかなかほぐれなかった。入室相談の電話では必要な情報を収集しなければいけない。そのうちの一つ、「検査は取ってありますか？」と質問した所、「病院で取りました。」との返事。そして続けて、「ワーキングメモリーと処理速度が低いんです」と話された。ワーキングメモリーと処理速度の弱さは、学校の中で目立ちやすいと言われている。

その２つが低いと強調したお母さん。学校での失敗経験が多いのであろうか。

それに対し、私は、高い値の知覚推理に焦点を当てて「見たことを取り入れて考える力がとても強いのですね」とお返しした。すると、お母さんは、先ほどとは打って変わって明るい声になった。

これまで様々な場所での相談活動の中で、相手の話した文脈の『どの言葉』を捉え、私がどんな『一言』を言うかで、状況ががらりと変わる経験をしてきた。「あの時、あんなことを言わなければよかった」と苦汁を舐めたことも何度かある。

そんな経験をもとに、今回の電話も丁寧に対応したつもりである。しかし、私が思う以上のお母さんの嬉しそうな反応に、自分が発した一言の刺さり具合のようなものを感じた。顔が見えない声だけが頼りの、ましてや不安な中でかけてくる電話では、かけられた一言の持つ重みが違うのだろうことを改めて感じた。

今日も、『ばく』を頼りにとの、思いのこもった電話が鳴るかもしれない。4 つの部屋の指導の声を背に、相談担当である私が受話器を取るだろう。その時は、今まで以上に相手の思いに気持ちを馳せて話を聴こう。そして、安心感を持って電話を切って頂けるような、一言をかけていきたい。

～子どもの変化を見守る（相談担当Bから）～

相談担当は、電話の応対をしたり、保護者の相談にのったりしながら、子どもの状況に注意を向けている。指導の積み重ねのなかで、声や姿勢、表情が変化していく。とりわけ不登校の子どもたちの表情の変化は著しい。

ばくに来た当初のこわばった表情が柔らかく溶けていく過程。同時に、お母さんの表情も柔らかくなっていく。指導担当とのおしゃべりもテンポがよくなっていく。その頃になって、相談担当もおしゃべりに参加してみる。変化の道筋をボールあそびに例えると…、

① １人でボールを抱えている時期・・・表情硬く固まっている。
② 指導担当との２者関係のキャッチボールの時期・・・どんなにきついボールも柔らかく返す大人との関係の中でボール遊びが続く。
③ 相談担当も入った３者関係でボールを回す時期・・・ボールの動きに変化が生まれると、“間の取り方”に変化が生じる。黙っていること、即時に返答しなくても圧力にならない “間”ができるようになる。
④ 4人以上・・・本人が中心になったテンポであっても、返し方には多様性があり、他者のやり取りを見る余裕が生まれる。
⑤ 下級生が加わる・・・相手を気遣う動きが生まれる。

相談担当として変化の道筋を見守ることで、安心と安全が保障された（傷つけられることがない）やり取りの中で、“人とかかわること”や“文脈で語ること”を経験していくことが如何に大切かということを実感している。さらには、自分の興味と関心を広げて、表現力や語彙力をつけていくことで、よりよい自己理解や自己肯定感を育み、自分の道をみつけていくのだろうと思う（自己選択）。

💛ばくは、賛助会員の皆様や多くの方々の励ましやご助言で続けていくことができています。今後とも応援よろしくお願いします。

静岡県静岡市駿河区大和２丁目６番５号　東京堂ビル 305 号
電話・FAX：054-266-5616（火～金曜日　15 時～19 時 30 分）
賛助会費振込先：郵便口座番号 00810-6-134767　　発達障害児応援団ＮＰＯばく
（一口 1000 円、何口でも）
E-mail:baku@orion.ocn.ne.jp　　URL：http://www.npobaku.sakura.ne.jp